

## 情報化と地域の変化

富山県山田村企画調整室 岩杉陽一

### <はじめに>

山田村は、富山平野の南西部に突出する呉羽丘陵から飛騨山系に連なる牛岳山麓を南北に貫流する山田川を挟み、標高100m～1,000mの山峡に位置する。

県都富山市からは、約22Km、JR 富山駅からバスで50分の道程にあり、山田川沿いを中心に22の集落が点在し、人口約1900人の緑豊かな山村である。

これまでに、恵まれた自然的・地理的条件を活かし「スキーといで湯の里」として地域振興に努めてきたところである。

また、これらの施策と併せ、生活環境面での整備にも力を注いできたところであり、特に、上水道、下水道の普及率は共に100%となっている。

近年では、全戸の約90%に相当する390戸にパソコンを普及させるなど地域情報化に取り組み、また、太陽光等を活用した新エネルギーの導入の検討を進めるなど、山村での理想的な生活環境の実現を目指しているところである。

### <生活の中の情報化>

平成7年4月、教育現場からの通信回線の要望がきっかけとなり、その年の8月に山田村役場と山田中学校がインターネットに接続しホームページを発信した。さらに、翌年1月には、国土庁の「地域情報交流拠点施設整備モデル事業」の採択を受け、村の情報化は急展開してきた。

情報化推進の大きな起点となったこの事業は、「地域づくりのための情報化を地域ぐるみで」をテーマに、拠点施設となる「情報センターの建設と運営」と「希望家庭へのパソコン貸与と学習」を事業の柱とし、「通信による視野の広まりを今後の地域づくりに活かして

いこう」と地域ぐるみの情報化に積極的に取り組んできたところである。

地域ぐるみでの情報化を進めるには、まず、インフラ整備からであり、併せて、各々がその機器にいかに関心親しんでいくか、そして、いかにその利便性を生活の中で見いだしていけるかということである。

いずれにしても、長期的展望に立ち、この地域における情報化の基盤を作りながら「生活の中に入り込んでいく情報化」を目指しているところである。

### <働きかけ>

情報力は、時間と距離を克服し多様な流通形態を可能にするとともに、個人や企業をはじめ社会構造全体に大きく影響を及ぼすものと考えられる。

過疎地において、都市部との情報格差の是正や近隣地域間での通信環境の利活用は、その地域の大いなる活性化を期待させるもので、それは、今後の村のあり方を検討する上でも大きなポイントの一つになるものと考えられる。

特に「IT」のように、先端的な技術を駆使した社会情勢の流れは、都市部では自然体で浸透していくものと考えられるが、山村では、試行錯誤しながら様々な形での働きかけがなければなかなか進んでいかないものである。

このようなことから、行政側からの積極的なきっかけやルール作りは重要と考える。

### <点から線へ、網へ>

情報化を進めるには、とりわけ、ハードとソフトの連携が重要である。スタンドアロンで使う情報機器はその機能を十分に発揮できないものである。

やはり、「点」と点を結ぶ「線」の整備は重

要といえる。特に、高速大容量の通信網の整備は今後の地域振興において大きな鍵となり得るものといえる。

これら通信網はあらゆる地域を結んでいるものであり、その機能は、国内全域はもとより一気に世界へとまでその足は伸びてしまう。

通信網は、どれだけの容量のものを、いかに素早く駆け巡らせることができるかが求められることの一つにもなるが、それらは繋がっているもの、繋がっているべきものである。さらに、生活にいかに活用していくべきかを目指すものでもある。

ちょっと、視点を変えてみると通信網と道路網の整備は似通っているといえるかもしれない。ハード面やソフト面、安全対策、保守面、さらに、見えるものと見えないもの等、その形態は圧倒的に異なるが、「線」と「生活」として捉えてみると違った見方ができると考える。

これまでに、道路をはじめ、鉄道、電話、電気、上・下水道等、「点」と点を結ぶ「線」、さらに、それらを結び合わせて「網」的に整備が行われてきた。

そして、そのことは、「生活」レベルを大いに向上させてきているのである。

#### <ファースト1マイル>

これまでには、道路をはじめ、鉄道、電話等、このような「線」に関するハード的な整備は、国家的プロジェクトとして行われてきた。

これらのますますの進捗と併せ、目に見えない「情報道路」の整備は、それぞれの地域をはじめ、個々の生活を大いに変革させるものといえ、今後の、地域振興の重要な施策といえる。

山間地においては、これら「線」の整備には、いつも「ラスト1マイル」的なイメージが浮かび上がる。このことは、公的投資では、生活に関わるものとしてなんとしても打破し

たい事柄であり、道路や上・下水道の整備も同様に進められてきたところである。

この「ラスト1マイル」を「ファースト1マイル」として、発想豊かに取り組んでいくことができるのが情報道路の整備では可能であり、大切なポイントとして考える。

#### <膨大な推進力に期待>

観光面や農業面など、従来から持つその地域の地力に新しい能力が付加されると、いうまでもなく、その地域は大きく変化していくものである。

中でも、地域における情報化の整備は、一つの加点が幾重もの大きな力を生み出す原動力となり、それは、さらに、膨大な推進力とともにその地域を大いに振興させるものとする。

#### <結びとして>

情報化を進めていくには、サーバやクライアント等の情報機器類の運用・管理はもとより、様々な形での繰り返しのパソコン講習会の開催やトラブル対応等、積極性を失わず「情報化の保持」に努めていくことが大切なことといえる。

そして、誰もが、着実に、気軽に情報化への扉を開けられるよう、また、将来を見据えた情報化の基盤づくりのためにも、これらのことを考慮しながらの今後の情報化への取り組みは一層重要なことといえる。

今後、ますます充実されるであろう通信網の整備は、それぞれを今までにない空間へと導きながら大いに振興させてくれるものと考え、このことは、大きな可能性と期待を抱かせてくれるものである。